



大手家電メーカーが経営の見直しによる九千人の人員追加削減を発表した。前年度を含めると三万一千人にもものぼるらしい。また、先日発表された政府のデフレ対策でも、不良債権処理が予想通り進んだ場合には、四十五万人の失業者や二百万人前後の離職者があるとの試算が、大手シンクタンクから予測値としてだされていった。このことは、失業しなくても、子会社への配置転換や職種転換が頻発するということだ。

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

雇用者だけでなく、景気の悪化と不良債権処理にもなる。貸し渋りや貸しはがしにより、経営者も日々大きな不安を抱えている。

これらの不安を緩和するため、経営上や再就職の助成を含む多くの支援策も打ち出された。が、さすがに景気が大きく好転

する見込みのない現在、表裏の支援だけでいいのだろうか？

現況は、雇用者だけでなく、経営者や管理者も含め「ピンチ」の負担は相当なものである。現在、企業人向けのカウンセリング・プログラムを開設している私にとって、昨今の経済ニュース

は非常に気にかかるものである。

このような経済状況が続くと、ストレスレベルは大きく上昇し、それにもないうつ病、アルコール依存症、DV(ドメスティック

・バイオレンス)家庭内暴力など、こころの病(こ

いろ)それを物語るように、自殺した四十―五十歳代の男性の六割が、負債関係・事業不振・生活苦の問題とされている。

特に男性は、孤独や不安を一人で抱え込んでいる人が目立つ。そして、自分で処理しきれないストレスを

・イライラする・集中できない・食欲がない・酒量が増えたなどのシグナルがいくつか該当し、職場内でのストレスが通常以上にかかっている場合には、要注意である。

雇用創出や経済の活性化も重要であるが、「こころ」

企業人に「こころ」のケアを

のケアも忘れてはならない課題であることを

こころの過労)が顕著に増えてくる。最悪の場合には、自殺にまで追い込まれることもある。

自殺は一九九八年より増えはじめ、交通事故死の三倍にもなる三万人台で、ここ数年推移している。失業率と自殺率は如実に関連しており、平行して上がって

溜め込んでいることを自覚していない人や、ストレスを認めたくない人も意外に多い。こころや体が出している危険信号のシグナルを、当事者や周囲の人が早く気づき、病院やカウンセリングに通うなど、迅速で適切な処理が必須である。眠れない・疲れがとれない

「企業人に「こころ」のケア」を―の時代である。